園芸チンジョイ

ピーマン（露地栽培）

田中　義弘

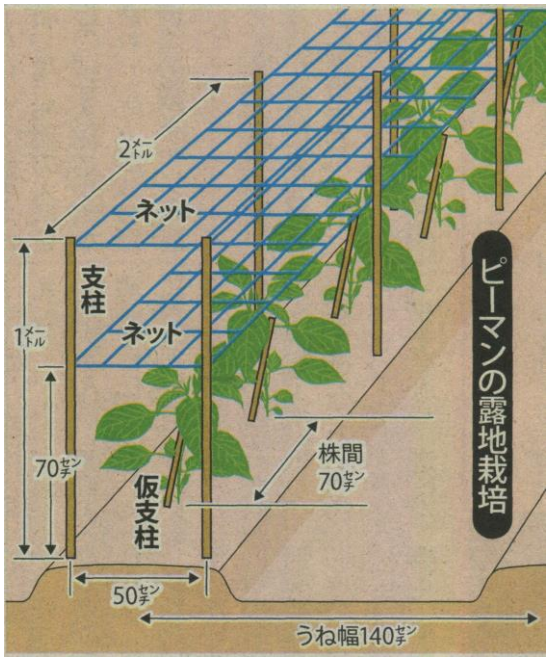
乾燥や連作に注意

ピーマンは，戦後急速に消費が伸びた野菜で，呼び名はフランス語でトウガラシを意味する「ピマン」に由来しています。店頭に並んでいる緑色のピーマンは果実が未熟なうちに収穫したものです。完熟させた果実をカラーピーマンとして収穫する栽培もあり，赤，黄，オレンジ色が人気があります。栄養価は非常に高く，ビタミンＣやカロテンを多く含んでおり，洋食や中華料理によく利用されます。今回は，夏から秋にかけて家庭菜園で手軽に作れる露地栽培を紹介します。

生育適温は２０～３０度，発芽適温は３０～３３度で温暖な気候を好みます。肥沃な土壌が適し，水分を多く必要としますが，過湿には弱いです。連作すると土壌病害が発生しやすくなるので，次作は作付け場所を変え，ウリ科野菜などとの輪作が好ましいです。

苗は購入する場合が多いですが，好きな品種を選び，種を購入して育苗から始めるのも楽しいです。育苗期間は７０日くらいです。定植時期は，平均気温が１７度以上となる４月下旬～５月で最初の花が咲く頃が苗の植え付け適期です。

花の着き方は，一番花が主枝の十節付近に着生し，その基部の両側に２本の分枝が伸びます。この分枝の第１節におのおの２番花が分化し，その基部からさらに２本分枝が伸び，以後これが繰り返されます。



本ぽには，１平方メートルに堆肥３キロ，苦土石灰１００グラム，化学肥料１００グラム（窒素，リン酸，カリが成分要素１５％の場合）程度を施し，耕うんします。定植前に黒ポリマルチをすると乾燥や雑草を防止するのに効果的です。

栽植密度はうね幅１４０センチ，株間７０センチ程度です。定植後は仮支柱を立て株を固定します。枝が伸びてきたら，両側（幅５０センチ程度）に２メートル間隔で支柱を立て，７０センチと１メートルの高さに１５」～２０センチ目合いのネットを水平に張り，枝を支えてやります。

追肥は生育を見ながら，定植１カ月から２週間おきに施します｛１回当たり化学肥料２０グラム）。整枝は，ほぼ放任でよいですが，茎葉が繁茂してきたら密生した部分の枝を切除し日当たりを良くしましょう。かん水は定期的に行う必要はありませんが，乾燥が続く場合はかん水しましょう。水分が少ないとカルシウムの吸収が不十分となり，尻腐果が発生します。また，梅雨明け以降は温度が高くなりすぎるので，うねと通路に敷きわらをして地温を下げ生育を促進しましょう。

収穫は開花後２０～２５日，果重３０グラムで１週間に２回程度行います。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室主任研究員）

平成２９年２月９日（木）／南日本新聞